

V 学校質問調査結果

1 学校質問調査について

全国学力・学習状況調査では、質問調査項目を下記Ⅱ～Ⅳの領域に分けています。

また、これらの領域番号ごとに京都府（京都市を除く）の結果チャートを示しています。

各学校の結果にも学校ごとの結果チャートが掲載されているので、学校の現状が分かります。

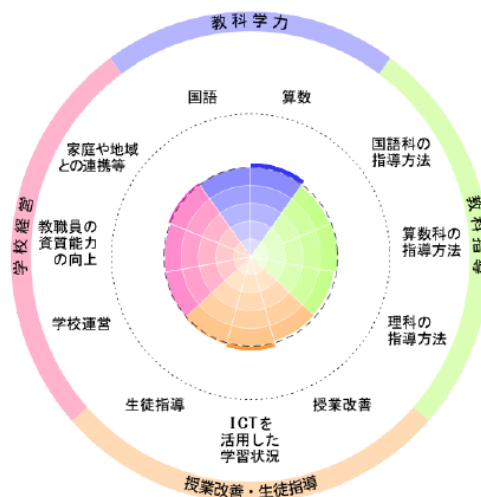
【小学校】

結果チャート（内側の線が全国平均）

＜令和6年度調査の領域名と学校質問の質問番号の対応一覧表＞

領域番号		領域名	小学校学校質問 対応領域・項目番号
Ⅰ	1	教科学力	国語
	2		算数
Ⅱ	3	教科指導	国語科の指導方法 (41)～(44)
	4		算数科の指導方法 (45)～(48)
	5		理科の指導方法 (49)～(51)
Ⅲ	6	授業改善・ 生徒指導	授業改善 (25)～(35)
	7		ICTを活用した学習状況 (53)～(61)
	8		生徒指導 (7)(8)
Ⅳ	9	学校経営	学校運営 (12)～(14)(75)
	10		教職員の資質能力の向上 (16)～(18)
	11		家庭や地域との連携等 (69)(70)

※領域番号1～2については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。
 ※領域番号3～11については、「小学校学校質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。



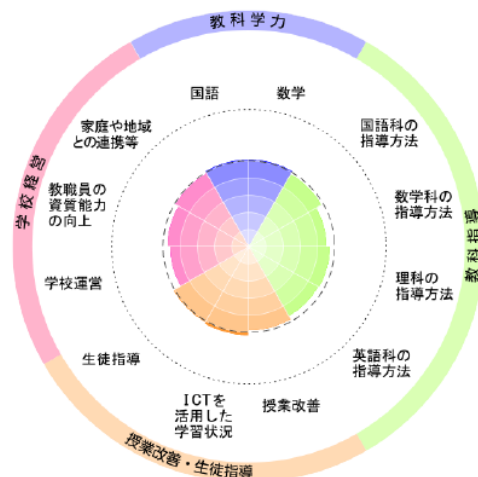
【中学校】

結果チャート（内側の線が全国平均）

＜令和6年度調査の領域名と学校質問の質問番号の対応一覧表＞

領域番号		領域名	中学校学校質問 対応領域・項目番号
Ⅰ	1	教科学力	国語
	2		数学
Ⅱ	3	教科指導	国語科の指導方法 (41)～(44)
	4		数学科の指導方法 (45)～(48)
	5		理科の指導方法 (49)～(51)
	6		英語科の指導方法 (52)～(56)
Ⅲ	7	授業改善・ 生徒指導	授業改善 (25)～(35)
	8		ICTを活用した学習状況 (57)～(65)
	9		生徒指導 (7)(8)
Ⅳ	10	学校経営	学校運営 (12)～(14)(79)
	11		教職員の資質能力の向上 (16)～(18)
	12		家庭や地域との連携等 (73)(74)

※領域番号1～2については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。
 ※領域番号3～12については、「中学校学校質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。



結果チャートに示された京都府（京都市を除く）の傾向を、領域ごとに次のページから見ていきます。

2 学校質問の調査結果について

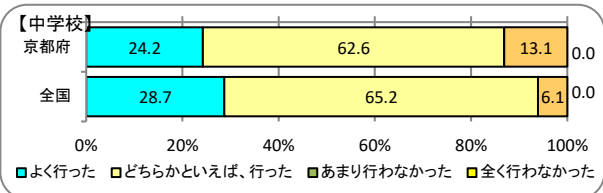
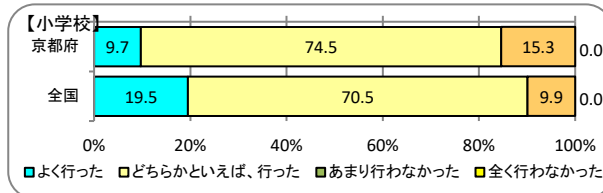
(1) 国語科の指導方法

京都府のデータは京都市を除いています

【知識及び技能】

(小) Q41: 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、情報と情報との関係付けの仕方、図などに語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行いましたか

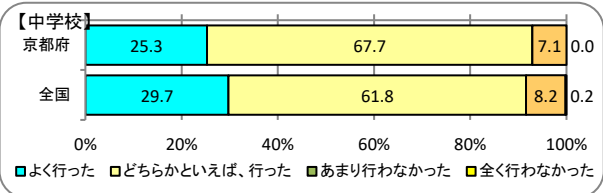
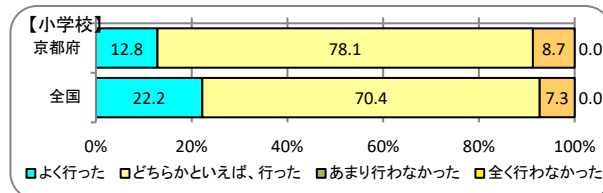
(中) Q41: 調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行いましたか



【話すこと・聞くこと】

(小) Q42: 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けしたりして、話す内容を検討することができるような指導を行いましたか

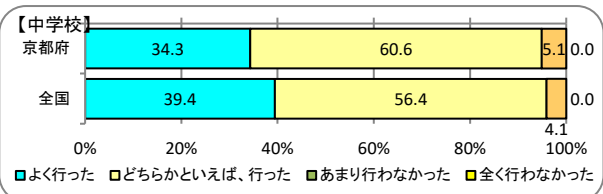
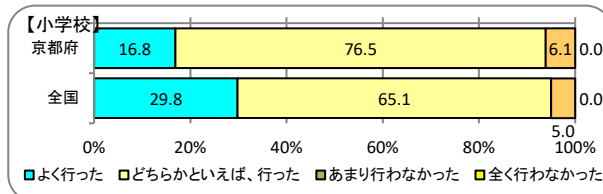
(中) Q42: 調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、話題や展開を捉えながら話し合い、他愛の発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行いましたか



【書くこと】

(小) Q43: 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか

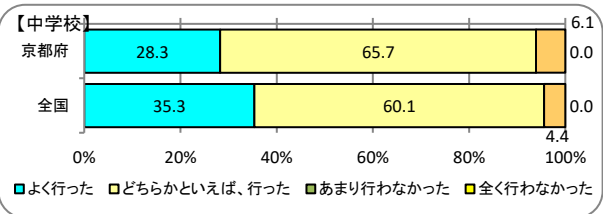
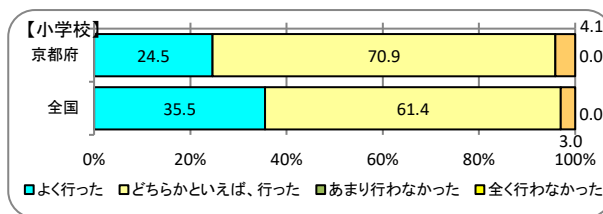
(中) Q43: 調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行いましたか



【読むこと】

(小) Q44: 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか

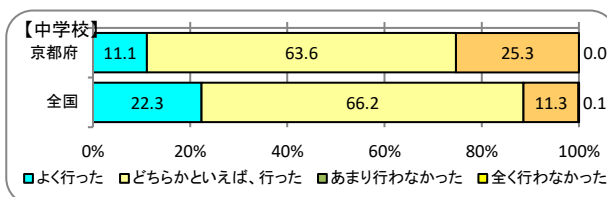
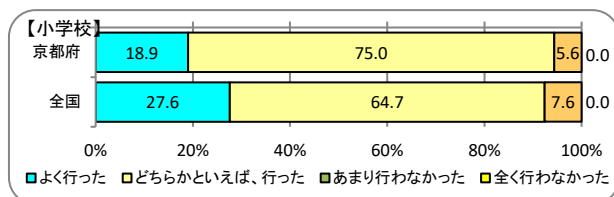
(中) Q44: 調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行いましたか



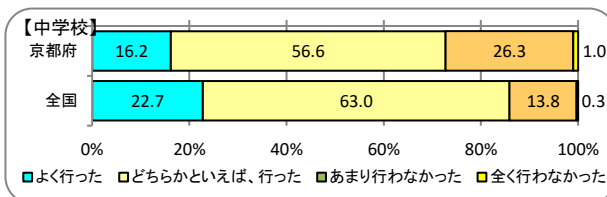
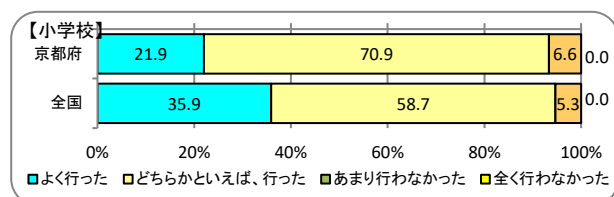
(2) 算数【数学】科の指導方法

京都府のデータは京都市を除いています

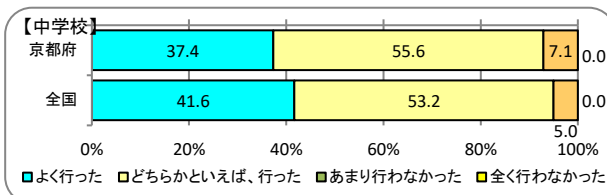
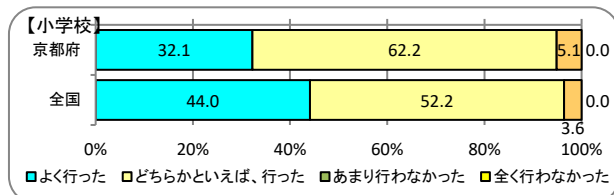
Q45：調査対象学年の児童【生徒】に対する算数【数学】の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



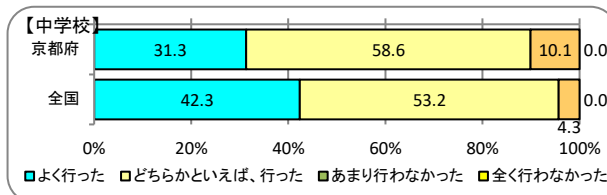
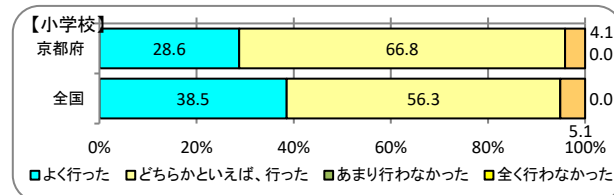
Q46：調査対象学年の児童【生徒】に対する算数【数学】の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習【観察や操作、実験等】を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする【数量や図形等の性質を見いだす】活動を行いましたか



Q47：調査対象学年の児童【生徒】に対する算数【数学】の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童【生徒】に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか



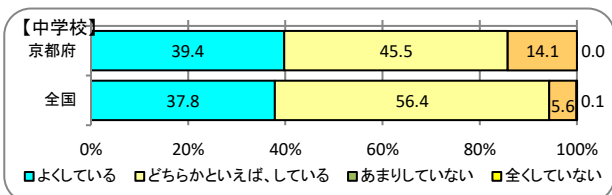
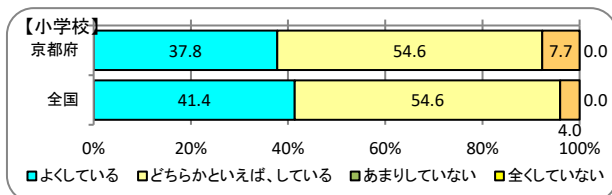
Q48：調査対象学年の児童【生徒】に対する算数【数学】の授業において、前年度までに、児童【生徒】がどのようなことにつまずくのか想定した授業を行いましたか



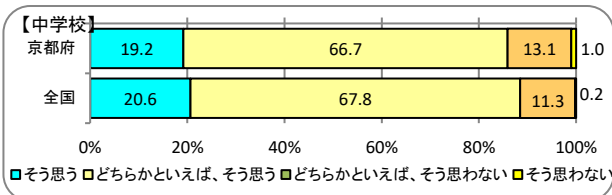
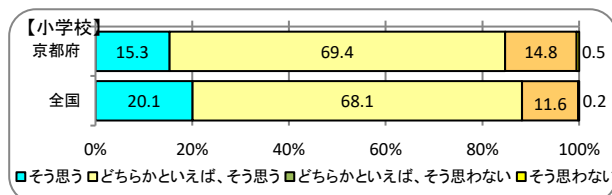
(3) 授業改善

京都府のデータは京都市を除いています

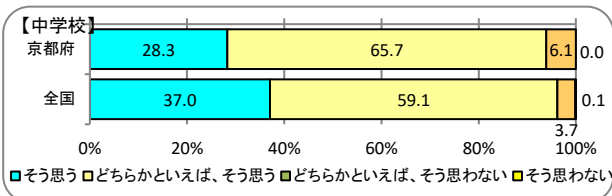
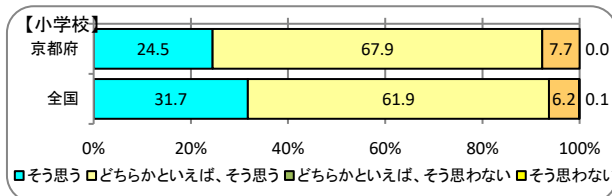
Q15：言語活動について、国語科と要として、各教科の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



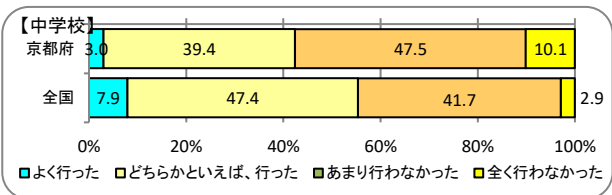
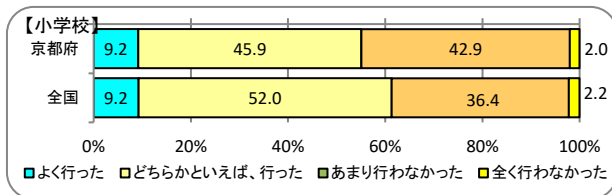
Q25：調査対象学年の児童【生徒】は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか



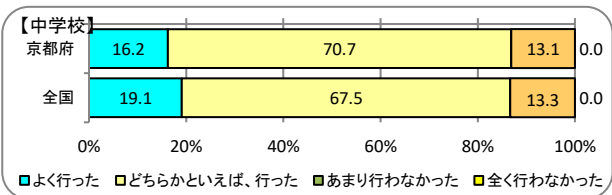
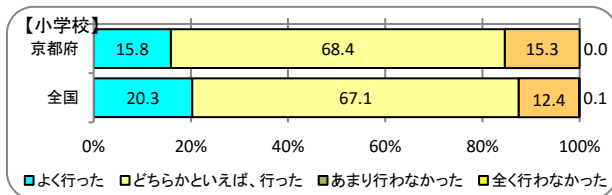
Q28：調査対象学年の児童【生徒】は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを自分の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか



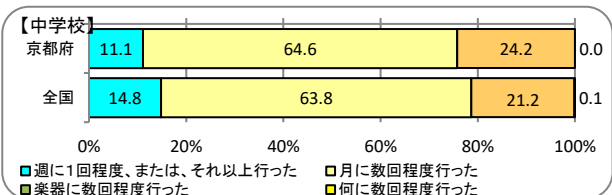
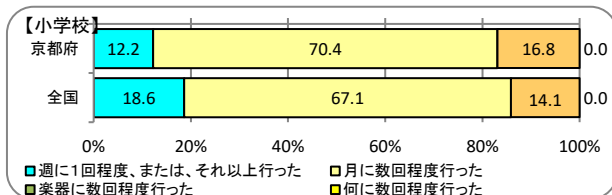
Q29：調査対象学年の児童【生徒】は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていますか



Q34：調査対象学年の児童【生徒】に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



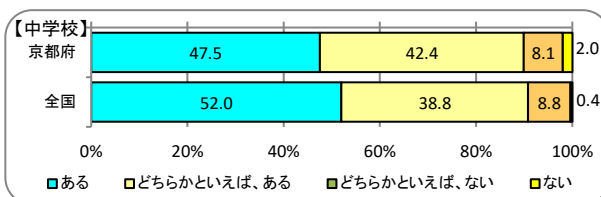
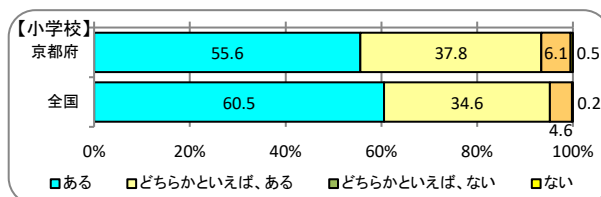
Q35：調査対象学年の児童【生徒】に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



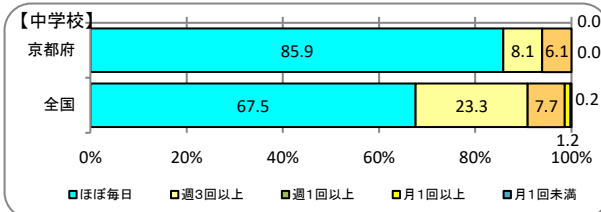
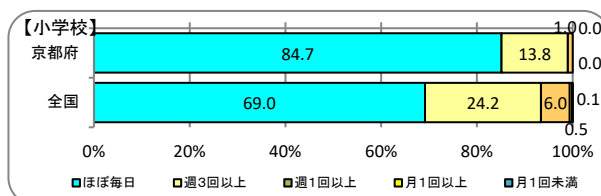
(4) ICT

京都府のデータは京都市を除いています

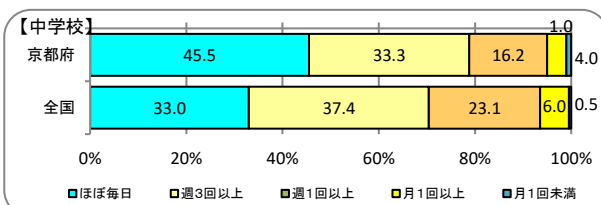
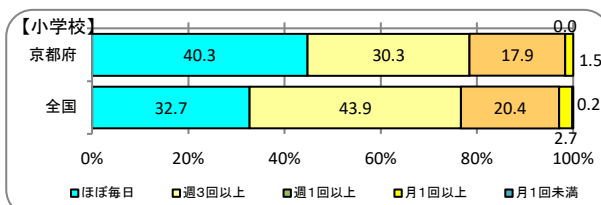
(小)Q54(中)Q58：教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか



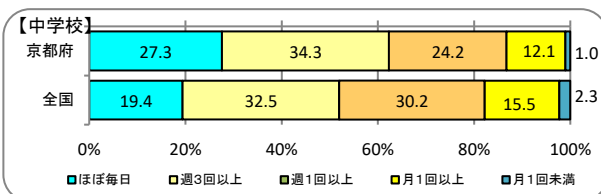
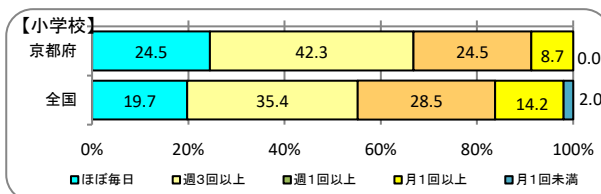
(小)Q56(中)Q60：調査対象学年の児童【生徒】に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



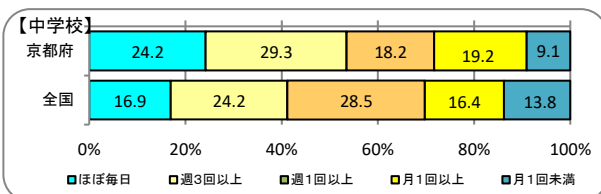
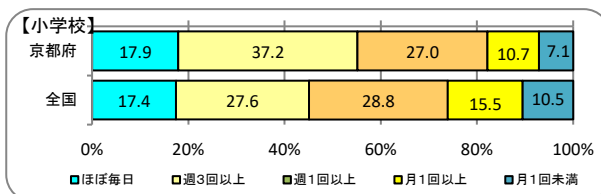
(小)Q57(中)Q61：調査対象学年の児童【生徒】が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童【生徒】一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



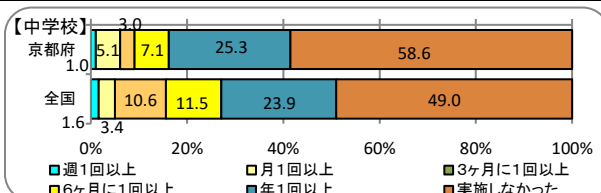
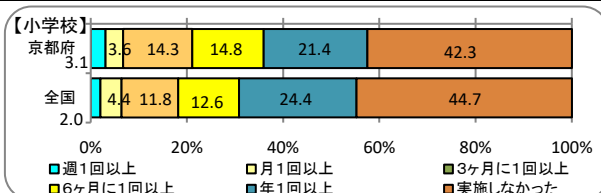
(小)Q58(中)Q62：調査対象学年の児童【生徒】が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童【生徒】一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



(小)Q60(中)Q64：調査対象学年の児童【生徒】同士がやりとりする場面では、児童【生徒】一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



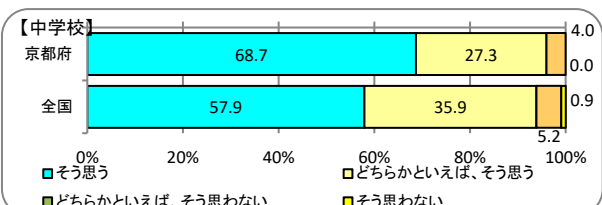
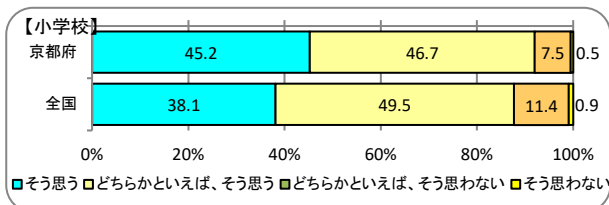
(小)Q62(中)Q66：前年度に、児童【生徒】一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童【生徒】が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか



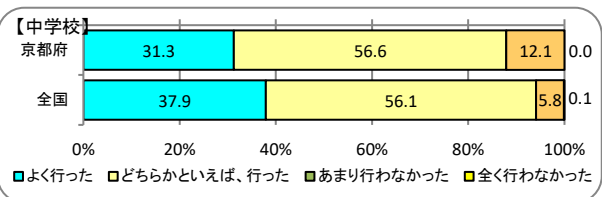
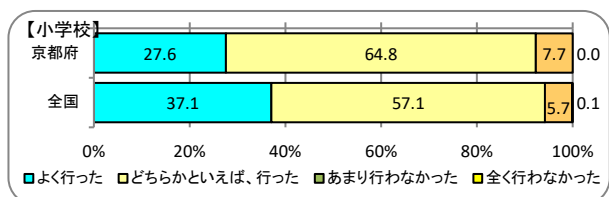
(5) 生徒指導

京都府のデータは京都市を除いています

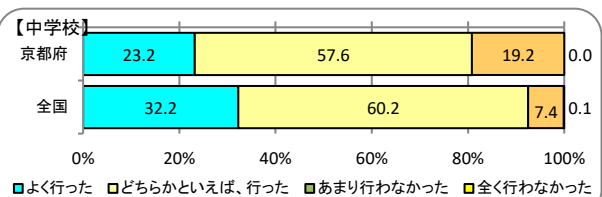
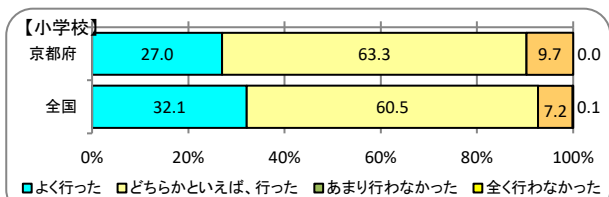
Q7：調査対象学年の児童【生徒】は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



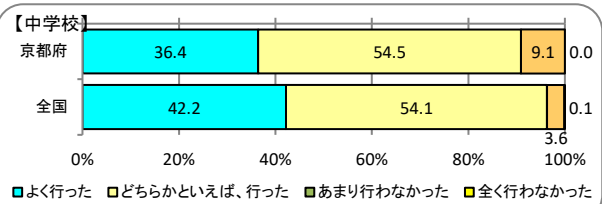
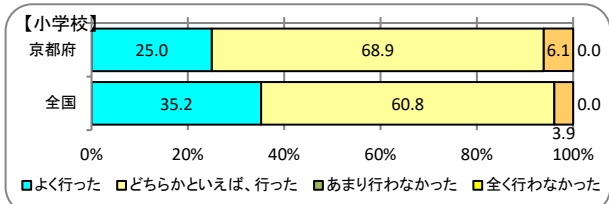
Q37：調査対象学年の児童【生徒】に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか



Q38：調査対象学年の児童【生徒】に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか



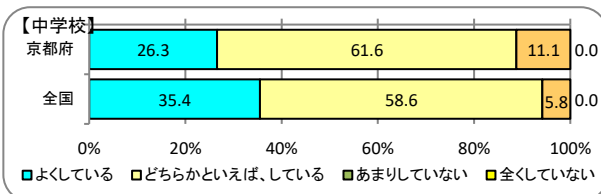
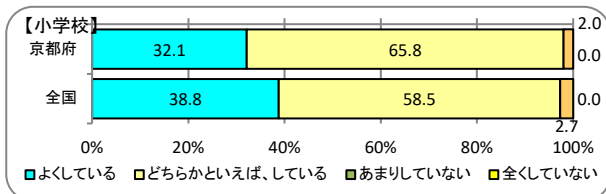
Q39：調査対象学年の児童【生徒】に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか



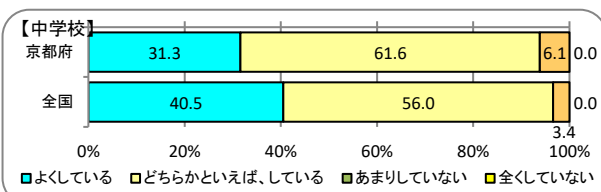
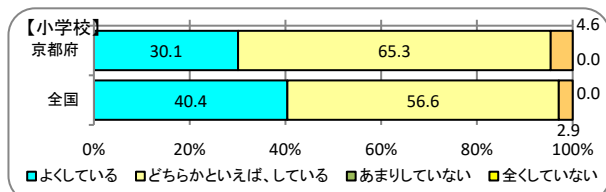
(6) 学校運営

京都府のデータは京都市を除いています

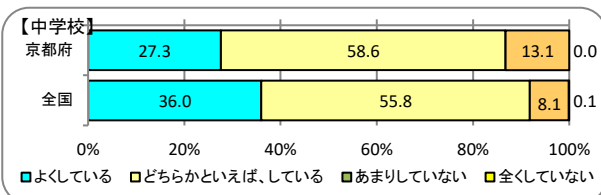
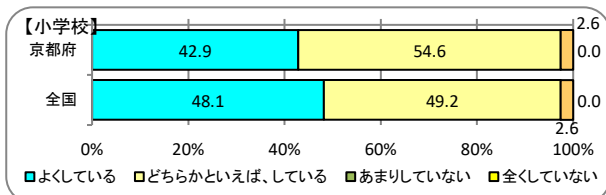
Q12：指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか



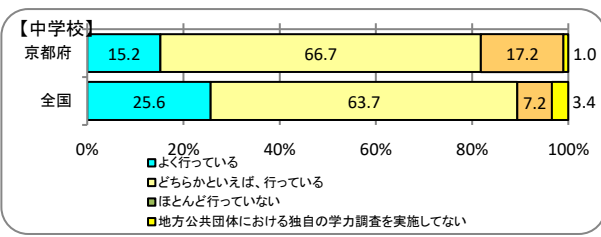
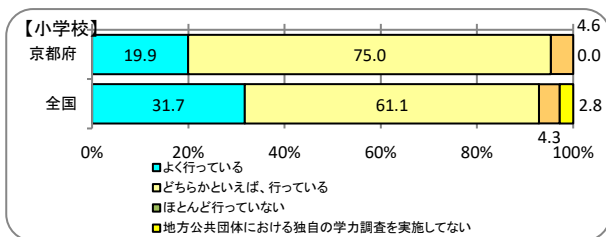
Q13：児童【生徒】の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



Q14：指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか



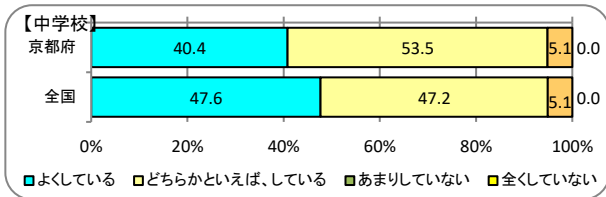
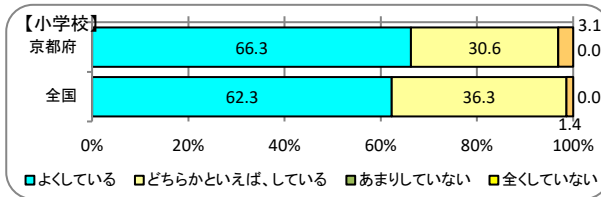
(小) Q75 (中) Q79：全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか



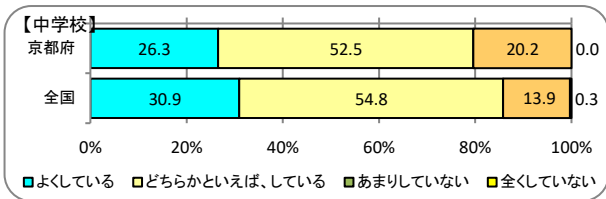
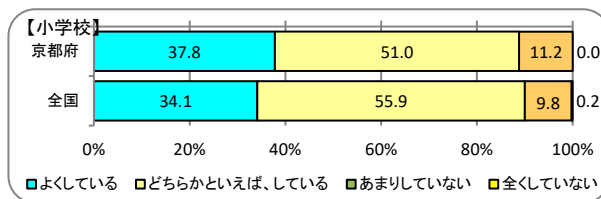
(7) 教職員の資質能力の向上

京都府のデータは京都市を除いています

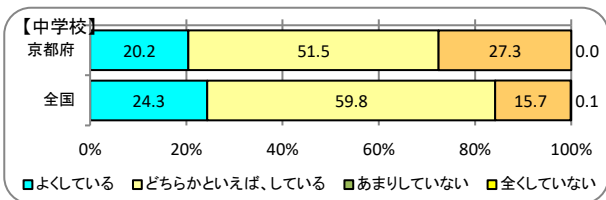
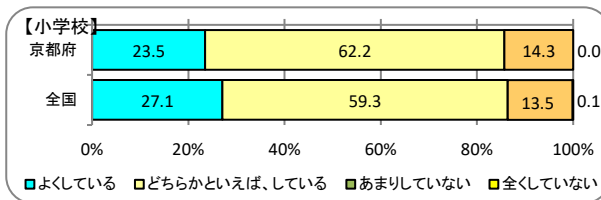
Q16：授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか



Q17：児童【生徒】自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

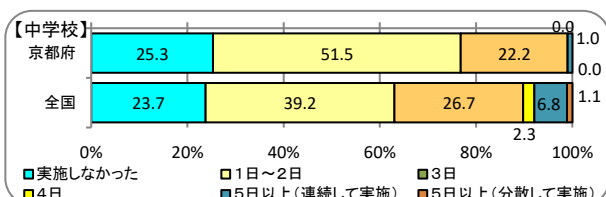
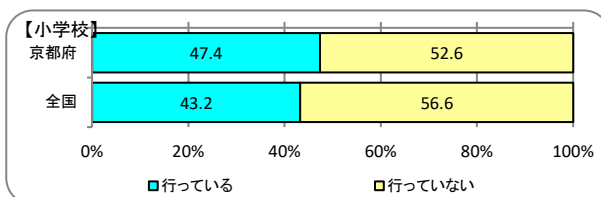


Q18：個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）



(8) 家庭や地域との連携等

(小)Q69(中)Q73：(小) 職場見学を行っていますか(中) 調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか



(小)Q70(中)Q74：コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

